

東近江市農村振興基本計画 〔アグリプラン〕



風土を生きし

みんなで育て未来につなぐ

豊かな東近江市の農



令和3年3月 改定

 東近江市

新たな時代に対応した農業の確立をめざして



本市は、県下最大の農業生産額、近畿最大の面積を誇る広大な農地を有し、水稲、麦、大豆はもちろん、野菜や果樹、畜産など地域の特色を生かした農業が営まれています。この広大な農地を有効に利用し、本市の基幹産業である農業と美しい農村を子孫にまで伝えていく策が問われています。

現在、農業を取り巻く環境は、社会的・経済的情勢の変化、農業従事者の高齢化に伴う農家戸数の減少や後継者不足等の課題に加え、農産物価格の低迷、生産資材の高騰など大変厳しい状況となっています。更に、新型コロナウイルス感染症のパンデミック（世界的大流行）によって、一部の国で食料の「困り込み」が行われ、日本の食料自給率（38%）の現状と、その生産基盤の脆弱性が改めて浮き彫りとなりました。また、世界人口の爆発的な伸びや地球温暖化による大災害などによる食糧危機も懸念されており、食料安全上、早期に食料自給率を向上させる必要があります。

こうした情勢に対応するため、平成27年7月に策定した「東近江市農村振興基本計画（アグリプラン）」の成果や課題を整理し、新しい時代に対応した地域農業の発展を図っていくための指針とするべく、本計画を改定しました。

本市農業が持つポテンシャルは、鈴鹿山脈から琵琶湖までを市域としこれらの恵みを受けた肥沃な農地を持ち、京阪神や中部地域にも近いなど非常に高く、厳しい農業情勢であったとしても、地域一丸となった取組を進めることで、更に大きな飛躍ができると考えています。

このアグリプランでは、本市農業・農村の将来像を「風土を生かし、みんなで育て未来につなぐ豊かな東近江市の農」としており、本市の農業とともに、豊かな自然や歴史・文化を市民の皆様と育てていくことが重要です。近い将来、市民の皆様が毎日食べる農産物の大半が美味しく新鮮な東近江市産となり、さらに、全国的に有名な東近江ブランドが確立され、市民の皆様にとっても、東近江市にはこんなに美味しいものがある、こんなに美しいところがあると、人に自慢できるような市にしていきたいと考えています。

このように、本市の基幹産業である農業と豊かな歴史文化を有する農村を良好な姿で次の世代に引き継げるよう、地域の皆様と一緒に農業・農村振興の取組を進めてまいりたいと考えていますので、御理解と御協力をよろしくお願いします。

最後になりましたが、本計画の改定に当たり、真摯な御議論を重ねていただきました農村振興基本計画見直し検討委員会及び農業関係団体各位に厚く御礼を申し上げます。

令和3年（2021）年3月

東近江市長 小椋正清

目 次

第1章	はじめに	1
1	計画策定の趣旨	1
2	本計画の位置づけ	2
3	計画期間	3
第2章	地域の情勢と診断	4
1	地域の情勢	4
1	農業を取り巻く環境・社会情勢	4
2	位置と地勢	7
3	自然条件	8
4	社会経済条件	13
5	土地利用	20
6	農村地域資源の保全・整備	20
7	地域農産物の概要	21
8	農林業センサス等による農業・農村の動向	26
2	地域の診断	42
1	意向調査	42
2	各種計画及び地域の現状の整理と計画策定上の留意点	47
3	方向性	74
4	SWOT分析	76
第3章	地域の将来像	81
1	地域の将来の望ましい姿	81
2	農村振興のテーマ	84
1	おいしい東近江市産農産物の発信力・販売力強化	84
2	未来につなぐ「儲かる農業経営」の確立	84
3	農業・農村を将来にわたって担う「人財」の育成・確保	84
4	地域みんなの財産である「農地」の確保と保全整備	84
5	農村環境・歴史文化の継承と風土を生かした地域の活性化	84
3	農村振興の目標	85
第4章	東近江市の農村振興に関する施策の基本方針	87
1	将来像の実現のために必要な施策	87
2	推進プログラム	124
3	施策実施体制	129